

THE KOBECO 19TH
・第9回ブルーメール賞文学部門・選考座談会・

新鮮さに期待、梅村光明に

□選考委員□



小林 雄
<詩人>



杉山 平一
<詩人>



安水 稔和
<詩人>

中村隆「詩」、鷺承博「小説」、小泉八重子「短歌」、福元早夫「小説」、三宅武「詩」

秋吉好「小説」、江頭越子「詩」、桜井利枝「小説」、続いたブルーメール賞文学部門。第9回は詩の分野で選考をお願いします。昭和53年、54年に神戸を中心として詩集を出版した人が対象です。

安水 まず、この2年間の神戸での動きを掲げてみます。竹中郁

「ボルカマズルカ」、伊田耕三「イチとつう」、綾見謙「殺意の韻律」、内田豊清「影の歩み」、玉本格「おれいもうしあげたきこと」「裏長屋物語」、山本博繁「おくらと幽

靈と嵐」、広瀬正年「広瀬正年詩集」、井口浩「静寂の大地」、君本昌久「君本昌久選詩集」、伊勢史

郎「山の遠近」、ながんじ「悪い収穫」、岡見裕輔「続サラリーマン」、赤松徳治「痛み遠くまで」、堀

内定義「船と玉葱」、山本美代子「紡車」、三浦照子「やさしい旅」などがこれまでに詩集も出でおり安定した仕事をした人たち。新人で

は加藤裕、「火のブレリュード」、

梅村光明「破流智慾」、古田豊治「哀歌」、「静けさと薔薇のための書」、黒田徹「風のなか」、小林重樹「石に住む光」、たかはらおさ

む「繋れた糸」、北垣健二「未明の喉」、大西隆志「緯名で呼ばれた場所」、「近距離の色」などです。

杉山 「粒」の西本昭太郎は神戸に移ってきましたね。

安水 山本美代子とか赤松徳治はちゃんと自分の詩ができていてブルーメール賞というにはちょっと

小林 赤松徳治は半どんの会で新人賞を受賞しましたね。

安水 山本美代子も年間現代詩集

い収穫、岡見裕輔「続サラリーマン」、赤松徳治「痛み遠くまで」、堀

内定義「船と玉葱」、山本美代子「紡車」、三浦照子「やさしい旅」などがこれまでに詩集も出でおり安定した仕事をした人たち。新人で

い収穫」も良かった。

安水 堀内定義は前の詩集「弾道」で日本詩人クラブ賞を受賞。

杉山 僕は「船と玉葱」の方がおもしろいように思えたけど。

小林 新人というにはどうも…。

杉山 梅村光明「破流智慾」はフレッシュ。ちょっと力が足らないかもしれないけど。

安水 本人は非常におもしろがつて書いていて、おもしろがつてのしきみが透けて見える所がある。

それはそれなりにフレッシュな感じ。これから伸びる人だと思います。

杉山 新鮮だし、装幀もきれいで小林 最後の詩「嵯峨野1」なんかひつかかるがあとは見事です。

岡見裕輔「ながんじは独自の詩境をもっていますね。

杉山 「続サラリーマン」はおもしろかつたし、ながんじの「悪

さむ「繋れた糸」の前半は大変良かったが終りの「家庭」の部分が

ちよつとあまいんだな。

安水 きつちりと分けないでサツ
と並べてたら相乗作用でかえって

良かつたんじやないかな。ただ初
めの「勤め先」の詩は身につまさ
れる感がある。

小林 人間の感情が素直に出て、
苦悩がよく表わされている。逃げず
に真正面から取りくんでいる。

杉山 小林重樹「石に住む光」も
いい。本人も石みたいにものを言
わない人ですね。

安水 杉山先生の序文がいい。あ
んまり序文がいいもんで詩を読ん
でいくとそこからはみ出た部分が
目につくんですね。

小林 子供の頃の折り紙を想い起
こすような詩。丹念に見てるので
良さはわかるが言葉が足りない。

杉山 地味な人が10年位書いて
る。推したい人物です。

小林 古田豊治の詩は昔の自由詩
みたいで古い感じがしますね。

杉山 やっぱり詩はドキッとさし
てもらわないと。

安水 若い人には共感を得にくい
でしようね。だが「哀歌」の方に
は大きな構想が伺えますよ。

小林 「哀歌」の方がいい。野心
を感じます。

杉山 力迫力はありますよ。

安水 北垣健二「未明の喉」は抒情
のタッチが非常にいい。言葉がピ
ュッピュッと触手を伸ばしていな
がら描ききれていない所がある。

神戸 という感じがしないんだな。
杉山 もう一步という感じだな。

安水 VIKINGの同人、黒田

徹もいい。ユーモアがあるんです
ね。残念ながら相模原市在住。も

う一人、ぜひ推したいのが「漿」
の同人、姫路の大西隆志。「綱名

で呼ばれた場所」「近距離の色」
と2年続いて詩集がでます。

杉山 「近距離の色」は斬新でフ
レッシュですね。

安水 いなかのプレスリーという
か、カツコ良さそうで泥くさい所
が非常にいい。24歳です。

杉山 ブルーメールの名に相応し
く新鮮な人物を選びたいね。

安水 新しいな、という感じなら
大西隆志が群を抜いてる。

杉山 「漿」の同人で神戸での活
躍もあるわけだ。

小林 市民の学校で活躍してる梅
村光明の方が詩としては安定して
るようですね。

安水 どちらも新しい方向でおも
しきく大きな可能性を秘めてい
る。神戸と姫路、でわりきっては。

杉山 大西の方は出版が紫陽社で
幅広いチャンスにめぐり逢うかも
しない。梅村の方は神戸に根づ
いた活動で28歳の若さ、賞にはび
つたりの感じですね。

安水 コンスタントに書いており
詩集を出した時よりさらに飛躍し
て期待できる人。梅村に賛成です。

小林 神戸の賞ということで第9
回は梅村光明に決めましょう。

詩集 破流智軒 梅村光明

ばるちざん 詩集「破流智軒」(蜘蛛出版社)

THE KOBECCO 19TH

●第9回ブルーメール賞音楽部門・選考座談会

安定した内容の山内鈴子

□選考委員□



吉村一夫
<音楽評論家>



柴田仁
<音楽評論家>



小石忠男
<音楽評論家>

★数多かった昨年の音楽活動だが

編集部 はじめに過去の受賞者を確認しておきますと、第一回にピアノの田原富子さん。それから鷹匠中学合唱部を指導する矢野恵一郎さん。この合唱団は昨年七月にオーストリアの国際音楽フェスティバルに招待されて、むこうで何

回かの演奏会を開くという活躍ぶりでした。そしてバレエの上月倫子さん、モダンダンスの今岡頑子さんと続き、音楽評論として小石忠男さん、作曲の中村茂隆さん、ピアノの関晴子さん、声楽から坂本環さんとなっています。

吉村 とりえず各ジャンルから受賞者がでていることになつてますね。

本環さんなどは、昨年の音楽評論賞の受賞者で開いたもので、柴田 これはクリティッククラブ新人賞と神戸灘ライオンズクラブ音楽賞の受賞記念で開いたものでしたね。

小石 同じようにこの二つの賞を受賞している山内鈴子がリサイタル

~10月9日、神戸文化中ホール~を開いてます。

柴田 若いけれど自分のものをもつてゐるみたい。他にピアノでは

添田孝~7月3日、神戸文化中ホール~、片山晴美~4月5日、神戸文化中ホール~、中村八千代~10月4日、芦屋ルナホ

編集部 そうです。ですから今回も特にジャンルは決めないで、全体から候補者をあげていきたいと

思います。リストアップはジャンル別に進めたいと思います。

小石 ピアノから検討していきまと伊藤ルミが諏訪根自子の伴奏~1月22日、鳳月堂ホール~とピアノコンサート~11月29日、神戸外国俱楽部~。

小石 布野ゆき子が昨年の受賞者である坂本環とのジョイントコンサート~3月2日、神戸文化中ホール~。

柴田 演奏としては成長していく

小石 添田は、彼女自身としてもまあ普通の出来。

柴田 演奏としては成長していく

小石 添田は、彼女自身としてもまあ普通の出来。

吉村 他の人たちも良くもなく悪くもなくというところですね。ピアノで候補として残せるのは山内鈴子。

編集部 次に声楽部門ですが、こちらも数多く活動があつたようです。

柴田 関西歌劇団と二期会関西支

部が合同で、小沢征爾指揮の「ト

スカ」~7月11日・12日、大阪フェスティバルホール~が話題のひとつです

が、残念ながらあまり良いできとはいえないようですね。松本幸三、木川田誠、三室堯などが出演

一郎~、森川和子~6月26日、神戸文化中ホール~、名嘉山順子~3月3日、県民小劇場~などがありました。

小石 添田は、彼女自身としてもまあ普通の出来。

吉村 他の人たちも良くもなく悪くもなくというところですね。ピアノで候補として残せるのは山内鈴子。

編集部 次に声楽部門ですが、こちらも数多く活動があつたようです。

柴田 関西歌劇団と二期会関西支

部が合同で、小沢征爾指揮の「ト

スカ」~7月11日・12日、大阪フェスティバルホール~が話題のひとつです

が、残念ながらあまり良いできとはいえないようですね。松本幸

してました。

吉村 三室はなかなか安定している人で、このトスカのほかに「第九」で歌つたりもしているが、積極的にリサイタルを開くとかして欲しい人ですね。

小石 メゾ・ソプラノの井上和世が東京へ6月15日、青山タワーホールと大阪へ7月4日、大阪厚生年金会館中ホールでフランス歌曲独唱会を開いています。

吉村 ええ声だと思いますよ。

柴田 広岡隆正がリサイタルへ9月16日、大阪府立労働センターへ。

吉村 この人はソフトな声だから迫力がないけれど、ああいう歌い方は非常にいいと思う。

小石 小村亮三のリサイタルへ11月15日、大阪府立労働センターへもあり



演奏中の山内鈴子さん

ました。水準以上のでき栄えで、安定してといえるでしょう。

吉村 この人も声はええ。いつも安全第一という感じで、受賞ということになると決定打が欲しい。

小石 ギターの佐野健二がヨーロッパから帰ってきて活躍へ3月12日 県民小劇場／10月31日、大阪津村講堂へし

てます。

吉村 好評でしたね。まだ若いし、将来に期待したい。神戸でリサイタルを開いて欲しいですね。

柴田 神戸中央合唱団へ7月14日、神戸文化ホールや土曜会合唱団へ6月3日、神戸文化中ホールは相変わらず

よくやつますが、神戸市役所セントラル合唱団もとてもいいです。

小石 朝比奈千足がフレッシュコンサートへ4月6日、神戸文化大ホールで指揮者としてデビューします。

吉村 本格的な活動は今年からですが、注目していいでしようね。

編集部 最終的には山内鈴子、持田洋、佐野健二が残ると考えて、この三人から選考しましょう。

吉村 持田は神戸での活動があまりないから少し弱いけど、今までの実績や将来性は充分買えます。佐野も神戸でリサイタルを開くとかして、はっきりした主張を出して欲しいですね。

柴田 山内がいい。

小石 神戸では二回目のリサイタルで、個性的だし、安定していま

すよ。

吉村 山内に決定しましょう。

THE KOBECCO 19TH

●第9回ブルーメール賞美術部門・選考座談会●

榎忠の発想と個性を評価

□選考委員□



赤根 和生
<美術評論家>



乾 由明
<美術評論家>



増田 洋
<県立近代美術館事業課長>



草野 拓郎
<神戸新聞学芸部>

編集部 昨年の美術界の講評を交えながら第九回ブルーメール賞の選考をよろしくお願ひします。前回までの受賞者は山口牧生(彫刻)、丸本耕(彫形)、小西保文(洋画)、藤原向意(版画)、斉藤智(現代平面)、鄭相和(洋画)、山本文彦(洋画)、堀尾貞治(彫形)となっています。

赤根 絵画に関しては新しい人が出る余地がないといえますね。それに反して立体に見応えのあるものが多かった。田中薰(彫刻)を筆頭に宮崎豊治(彫刻)も常にレベルのある作品活動をしている。中右瑛(絵画)が県民アートギャラリーで大個展をやりましたね。河口龍夫(彫形)は決定打がない。植松奎二(彫形)が帰ってきて個展と講演をやりましたね。

乾 いい仕事でしたね。総括的な事を言うと明確なイメージがあり出ないです。かと言つて沈滯

していたというのではなく皆それぞれいい仕事をしていたが際立つた現象がなかったという事です。ここ数年来そういう情況が続いている。キャリアのある人が候補に挙がっているが、彼らは仕事ぶりが持続しているんですね。

田中、宮崎、それに西独に帰国してしまったが植松(版画)ピエンナーレで入賞した河口も彼の作品の中では取り立てて良かったという訳ではないが、コンスタンントな仕事ぶりだった。

草野 今までに主だった名が挙がりましたが私なりに印象に残った人の名をアトランダムに挙げてみますと南和好(洋画)は行動美術に所属してますが水準以上の作品を常に出品しています。岩見健二(洋画)の絆の絵もいいですね。中の大砲と東門画廊での個展…。

乾 あれは面白かった。個展は見てないが彼はいい。

増田 候補として来たのは榎忠(洋画)、松井憲作(平面)の三人ですね。

藤秀策(洋画)は山を描いているがす。尾田龍(洋画)は日動、橋本兩画廊での個展に迫力があった。工

乾 いい仕事でしたね。総括的な事を言うと明確なイメージがあり出ないです。かと言つて沈滯

宮崎、松井憲作(平面)の三人ですね。かと言つて沈滯

色を押された画調がいい。藤原志保／水墨／はこれからの人で伸びる人だと思います。他に木下佳通代／平面／八木マリヨ／彫刻／。田中はよくコンクリートで賞をかっさらいましたね。

増田 あんまりたくさん賞を取つたのでかえって今回は、と思うのですが。田中の活躍は素晴らしいと思いますよ。

赤根 後に続く人の事を考えると田中の仕事ぶりはどこに出しても恥しくない。宇部での一般公募で大賞受賞という例も少ないし。

乾 宮崎もコンスタンートな仕事ぶりで割に今まで賞に縁のない男だ。彼の実力をかってやってもいい。賞にこだわる必要はないが刀量が同じならそういう事を考えて

やった方がいいのでは。田中は勿論、実績があるが作品の良さでは宮崎も劣らない。宮崎の奇想天外な発想と発表は神戸っ子的ですな。

赤根 キタノサーカスの小清水漸展などね。企画そのものでブルーメール賞があたえられてもいい。

アートナウに出展した一圓達夫／版画／もいいね。川博／洋画／もよくやっている。これが山田祥三／洋画／。若手では黒川博／洋画／もよくやっている。こう考えると東門画廊を企画している堀尾の功績は大きいね。

編集部 候補をしぶりましょう。

増田 榎、宮崎、松井ですね。松

川博／洋画／もよくやっている。こう考えると東門画廊を企画している堀尾の功績は大きいね。

井は大阪での仕事が多かった様だがあの手の平面は今まで出てないですね。榎の奇想天外な発想と発表は神戸っ子的ですね。

赤根 河口は横バイのコンスタンートのようだから外しましよう。

乾 榎は、何をやるかを見ていいたいですね。

増田 前回の須磨野外彫刻展のエスキース入賞作品も面白かった。発想が広いですね。神戸の寅さんの人物でちょっと浪花節もあるし

赤根 神戸っ子の小説のさし絵を見て技術の上手さに驚きましたよ突飛な事をやつてもズサンなところがない。彼は四国の速水史朗／彫刻／の教え子だそうですね。

草野 仕事がいねいですね。

乾 榎は新鮮ですね。似ている様で堀尾とはタイプが違う。むしろ

宮崎と共通の職人はだですね。松井はいま一步というところだね。

赤根 田中の活躍も捨てがたいね

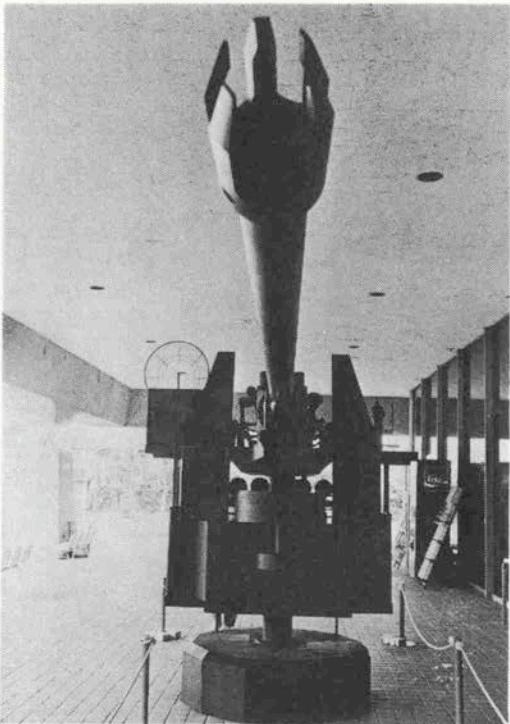
草野 そうですね。あれだけの活躍を考えると田中ですね。

増田 二人にしぶると榎、宮崎、し

かし今は榎を推したいですね。

乾 僕は宮崎を推したかったが、榎に一票を投じます。

赤根 榎の将来性や作品の発想の豊かさに敬意を表して第九回目は榎忠の受賞にしますか。



榎忠さんの“NNTITLED”アートナウ'79
(於県立近代美術館) 出品作品

草野 私も賛成です。
編集部 全員一致で榎忠さんに。

THE KOBECCO 19TH

●第9回ブルーメール賞舞台芸術部門・選考座談会●

圧倒的な仮名手庵歌舞伎

□選考委員□



佐野 淶箕
<神戸新聞文化事業局長>



小泉 康夫
<能楽研究家本誌編集長>



岡田 美代
<神戸文化ホール>

会ですね。

佐野 花柳芳一、芳恵二子の三ツ
桜会が六月ですね。

岡田 芳恵二子は江戸前の粹をみ
せた「江戸風流」がよかったです
ね。

佐野 コメディ・ド・フーゲツは劇
団神戸の『から騒ぎ』からだった。
去年三回ほど上演して、『四

谷譜』が一番良かった。台詞も
テンポもいい。佐藤博幸が新鮮だ
つたし、森秀人のワキが光つて
た夏目俊二の作品選びが上手い。

本人も大熱演だし定着させたいね

小泉 小倉啓子も神戸の看板女優
になりましたね。道化座も『い
えノイエ』が七月で五十回記念公
演としつこく頑張っていますよ。

★神戸文化の仮名手庵歌舞伎に
えり立つことは嬉しいことです。

岡田 五三輔会では花柳五三輔が
よく頑張って、助六がさわやか。

★好調！コメディ・ド・フーゲツ
編集部 第一回より古典芸能部門
ということで花柳芳恵二子、若柳
吉由二、吉井順一、花柳芳五三郎
花柳吉叟、藤間緑寿郎、尾上菊見
藤井徳三と日舞界、能樂界から選
考されました。が、今回から舞台芸
術部門と改め範囲を広げて選考し
てゆきたいと思います。

小泉 昨年、選考委員の富田順三
氏が亡くなられ、惜しい人材でした。
まず新年の催から展望しまし
よう。

岡田 満五周年を迎えて、観世・
佐野 神戸五流能がありましたね

金剛・金寿の各宗家の子息による
『弓矢立合』があり、これは気合
のこもった素晴らしいものでした。

佐野 神戸で五流能が続いている
のは嬉しいことですね。二月に新
内と新内舞踊の会があり、これも

民踊と同様ブームになってきました。
岡田 花柳樂堂の芳五会も恒例の

佐野 これから楽しみな人です。

七月は山吹会舞踊発表会、これは

全国的な組織で、一昨年の神戸ま

つりには約二千人が大パレードを

くり広げたんですよ。

岡田 衣裳や舞台背景にも凝って

いるし、ひとつのブームですね。

佐野 十一月にあった紫月会もす

ごい迫力でしたよ。

小泉 神戸能楽教室も第4回まで

続き小規模ながら定着しています

岡田 これからも続けて欲しい。

佐野 花柳勝十郎のリサイタルは

創作が多くて面白かった。筑前琵

琶演奏会は?

岡田 旭堂と娘の旭艶が演じた船

弁慶が印象的でした。琵琶は一般

の人々に聞いてもらえないのが残

念。グリーンステージの日本の調

べ「大和樂」は初めての会を神戸

で催したのが嬉しかった。

佐野 家元以下、一生懸命、真剣

でしたね。気合いが入ってた。

小泉 神戸で大和樂のメンバーが

揃うというのは大和三千世の功績

が大きいですね。

佐野 吾妻徳穂、武原はんの舞踊

会も二年続けて神戸でやったわけ

で、他の地域にないものを神戸で

育てていきたいですね。五流能や

神戸能もそうですが。

小泉 神戸能も第7回目を迎えた

観世静夫の玉井、藤井久雄の鉢木

觀世元正の花筐、上田照也の正尊

狂言は大刀奪と附子でした。

岡田 第3回神戸狂言の会もあり

ましたが狂言は神戸ではどうです

か。観客の動員が難しいですね。

大阪で狂言座をやっていますね。

小泉 善竹孝夫が頑張ります。

岡田 いさとよ会の花柳五三豊は

立ち姿が綺麗ですね。

佐野 この人も五三輔同様これか

らよくなる人ですね。若柳吉金吾

襲名舞踊会も華やかでしたね。

岡田 吉金吾の鏡獅子が評判でした。師走の仮名手庵歌舞伎が凄い。

佐野 今年で10周年になるね。大

ホールに観客を満員にさせるほど

の力をつけた。演物も勧進帳が良

かった。ともかく型になっている

岡田 発声法もできているし、若

いから肌がすごく綺麗ですよ。

佐野 海野先生の指導の鮮さです

小泉 今の日本の教育制度では先

生も生徒側にもできないことだ。

が、日本の若者が興味を示さない

伝統芸能の歌舞伎を外人があれほ

どやっている問題の提起ですね。

佐野 甲南大学に歌舞伎研究会が

あるけどそれより、仮名手庵歌舞

伎の方が様になっている。外人が

これだけやるからというのでなく

芝居としてみて、ホロリとさせら

れた。今年は海野光子率いるカナ

ディアンチームにあげたいね。

岡田 父兄を始め神戸に在住の外

人達が一生懸命応援して清々しい

よう。では仮名手庵歌舞伎、指導

・海野光子で決定しましょう。



<上>昨年12月に催された仮名手庵歌舞伎「勘進帳」のつめ合いの場面

<下>「御浜御殿綱豊卿」の稽古風景。海野先生の熱心な指導ぶり。

● 第9回ブルーメール賞ファッショントークセミナー・選考座談会 ●

努力家の市野木江充子に

□選考委員□



福富 芳美
<神戸ドレスメイカーライフ学院院長>



森本 泰好
<神戸地下街常務>



藤本 ハルミ
<デザイナー>



小泉 美喜子
<本誌エディター>

★分野をこえた盛んな交流

藤本 ハルミ、米田博司のお二人の受賞者を出してきたファッショントークセミナーですが、さて今年の神戸ファッショントークセミナーの動きはどうだったでしよう。ファッショントートークセミナーが、さて今年の神戸だけではなく、街づくり店づくりから料理まで広くとらえて、選考していただきましょう。

小泉 ファッショントークセミナーが、随分開かれましたね。ニットの市野木江充子が稻垣足穂「一千一秒物語」をテーマに、ブティック魔女の大里最世子も春、秋にコレクションをしました。KFCの春のシヨーは、真珠業界の協力を得たシヨーでしたね。

藤本 KFCのメンバーの中ではスリランカのイメージを作りにした大西節子が印象的でした。福富 彼女はジバンシーサロンで

鍛えられていますからね。最近のびて、個性も持つてきましたよ。

小泉 彼女自身の個性プラスジバニシーの格調がいいですね。

藤本 デザイナーはイメージから発想して服づくりをする人と形から入っていく人と二種類あると思うんですよ。市野木さん、大里さんは前者ですね。

福富 ただ、服というものは実用的でなくてはならない。特に神戸のファッショントークセミナーは「成り立たないんですよ。そういう点をふまえてのクリエイティブな作品でなくてはならない。独断に陥ってはいけないということです。市野木さんのシヨーを見ていふると彼女のヴィジョンは一貫して

藤本 重い暗い色は駄目ですね。小泉 そういう意味では浦野敏彦の色使いはとても神戸らしいですね。去年の秋、小松左京の芝居の衣装を担当してましたがよかったです。

福富 彼は将来が楽しみです。じっくり落ちついて仕事をして欲しいです。まだ基礎不足。

藤本 若いですかね、焦っています。若いデザイナーやるんでしよう。若いデザイナーやるんでしよう。若いデザイナーやるんでしよう。

藤本 KFCのメンバーの中ではスリランカのイメージを作りにした大西節子が印象的でした。

福富 彼女はジバンシーサロンで

ちには辛抱が大切、と一番いいたい。そしてコンスタントに作品を発表できる状況を早く作つて欲しいですね。

小泉 無台衣裳はこの他、柳本薰の劇団神戸、藤本さんは今岡頬子東京公演の衣裳を担当しました。

デザイナーと他の分野の人の交流の多い年でしたね。

藤本 KFCと真珠のドッギングも、交流の成功した例でしよう。

それからKFMというグループができました。神戸の自由なモダリストのグループということで、三月にショーを開きます。

★若い世代の街づくり、店づくり——北野町、センター街、元町に新しい店やビルができましたが、街づくりの話題もお願いします。



79年秋の市野木さんのショー『一千一秒物語』の中の作品
「銀河からの手紙」

小泉 シンワの岸野恭久、アルフレードの山田恭正、柴田音吉洋服店の柴田啓嗣と二代目のニューサイ

ティの活躍を感じます。

藤本 アルフレーはBIGI、メローズといった東京のブランドを置いているのですが、その中から、感心する程神戸の色だけを抜いてきているんです。商品の色構成が素晴らしいですよ。

森本 選択眼の良さですね。それにこれは戦前の神戸の専門店の特長でしたよ。

小泉 その他元町パルパローレをマスヤの近藤常吉が建てました。来年春に、ローズガーデンパートⅡもできるとか、楽しみですね。

森本 ダイエー中内功のスポーツワールド33もあります。神戸のス

ボーティープラウフを担うユニーケな店です。

★奨励の意味で市野木江充子へ

小泉 いろいろ名前はあがつきましたが、ブルーメール賞の対象となるのは、まず市野木江充子。

秦万紀子、秦砂丘子の門下を経て二十年以上ニットの仕事をしているし、毎年意欲的にショーを開いています。

福富 前回のショーは、少し飛躍的すぎるようには思いました。もう少し堅実さや実用性も持つて欲しいと思いました。

藤本 これからも彼女の個性を追求し続けていつらもつともつとよくなるでしょう。時々彼女の色調に、気になる部分があります。

福富 でも歴史の浅いニットの分野で頑張ってきたことは、評価したいですね。それによく勉強している。

小泉 稲垣足穂の文学的な世界にミットで挑戦したファイトと、作品がクールでありながらロマンを感じるイメージの世界を表現している神戸らしいクリエイターとして貴重な存在だと思います。

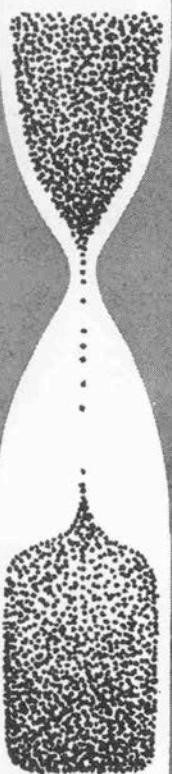
藤本 ともかく地味ですが熱心にコツコツ積み上げてゆく姿勢に対して、奨励の意味で今年は市野木江充子に決めてはどうでしょうか。

森本 結構だと思います。

△お可川にて△

★キャンペーン

国際文化都市神戸を
考える



28

「博覧会を成功に導く オール関西」の視点

池田
水上
鈴木

茂樹
章雄
守

（神戸ポートアイランド博覧会
三井グループ出展者会事務局長）
（三菱神戸博総合委員会事務局長）
（三企会事務局長代行）

日比野 武
渡部 隆夫

（美善グループ神戸博展委員会事務局長）
（日本IBM㈱広報担当マネージャー）

● 楽しい中に何かを提案するパビリオンにしたい

— 今回は、ポートピア館へご出展される東京の五社の方々にお集まりいただきました。まず、各社のパビリオンの内容のご紹介をお願いいたします。

池田 私どものテーマは、「海の童話」ということです
が、基本構想の線に沿って具体的に申しますと、全体の
ムードとしては楽しく、明るく、しかも清々しいという
ことで、パビリオンの中に四つの箱—マジック・ボック
スがあります。一の箱は「海の妖精」で、壁面に大きな
絵本を四、五点展示して、観客が自分で頁をめくること
ができる。床にも一か所斜めの方向から眺められる絵本
をつくる。穴あきの絵本や飛び出す絵本が音楽に合わせ
て仕掛けられる。二の箱は「波のおどり」で、迷宮とか
錯覚をモチーフとして展開する。ここでは、模型を使つ
て驚きを演出する。三の箱は「人魚の唄」で、映像のコ

マを動かす原理を再現して見せようと思い、中央にリン
グ状に回転するスコードをつくつて、リングの細かいス
キ間が連続して回ると、内部に仕掛けられた像がユーモ
ラスに動く。リングの下からはこの仕掛けが分かるよう
にもしたいと考えています。また、壁面には平面的に回
転する絵で動く像を見せる仕掛けを設ける。四の箱は
「子供の神様」で、これは、人形カラクリの動きをモチ
ーフにして演出する。アチコチに仕掛けられた紐を引っ
張ると人形が動いたり踊り出す。高度なメカニズムを單
純な操作にどう置き換えて行くか、を検討中です。カラ
クリ人形はテーマに沿ったものを考えます。これらの箱
は十数四方の真四角で整然と並べる。館全体の外側は壁
画のようなものを構想していますが、これはまだし絵を
使いまして、ユーモアを加味した映像などで、外側から
見ても楽しんでもらう。



日比野 武さん



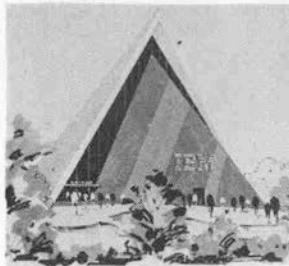
鈴木 守さん



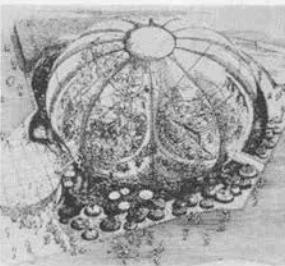
水上 章雄さん



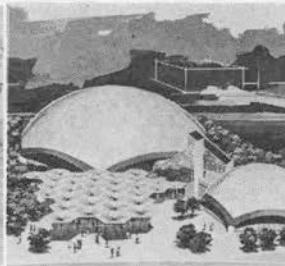
池田 茂樹さん



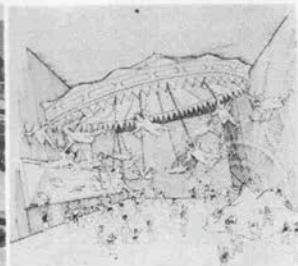
IBM館外観



芙蓉グループ館外観



三菱館外観



三井館より「子供の神様」

以上のように四つの箱という構想なんですが、八〇年代を迎えてただ遊んではばかりではありませんので、新しい未来都市の創造ということを踏まえますと、やはり、観客のみなさんに知的なイメージを感じていただくようになります。

水上 出展するに当たっては、大阪万博、沖縄の海洋博の延長になるわけですが、万博のときには、「五十年後の日本、その空と海と陸」ということで夢を描いた。

海洋博では「海と人間」ということで二十年、三十年先の理想を描いた。今度は「海と人間の明日」ということで、これは五年内に実現させるであろうということを描く。演出の方法ですが、三菱重工神戸製作所がつくっている回転レストランの方式ですね。直径三十㍍、幅二㍍のラウンドロード（回転回廊）を使って、大量の観客を円滑に誘導する。回廊の外、つまりドームの内壁、天井を三六〇度のスクリーンにして、造型、映像、照明、音響をコンピューターで操作して同時に演出をする。演出に当たりましては、過去二回と同様、田中友幸プロデューサーにお願いをしています。ラウンド・テーブルが一回回るのに約十分。エスカレーターの半分ぐらいいのスピードです。回っている間に、「気象海象予測」「地震予知」「資源の宝庫」の三つのストーリーを見てもらう。前回の二回の博覧会では、強制動線といいますか、物語りを乗り物でたどって行くわけですが、今度は最初から見られる方、途中から見られる方とありますので、十分間で三つのストーリーが分かるという演出方法が難しく演出スタッフが苦心をしています。直徑三十㍍のラウンド・テーブルで、音響だとか、映像だとか、全部を同時にやりますので、臨場感があるのじやないかと期待をしています。そこで、三菱のいろんな技術をお見せしようと、海外開発のためにどういう方法をやっているのか、省エネルギーだとか、いろんなことがあります、堅い話をいかにやわらかく、分かりやすく物語りでご説明していくのが目的です。楽しく、ゆかいなパビリオンにしたい考

えです。

鈴木 先に三金会を説明させていただきますと、五十三年一月に、私ども第一勧業銀行と比較的親しい企業十四社のトップの方でつくられた親睦会で、三月に一回、第三金曜日に会を開催するので三金会という名前がついています。現在考えておりますテーマは、「ふれあいの水」で、館の名称は「ハートピア水遊びのパビリオン館」。万博・海洋博を見ましても各パビリオンは映像や展示を主体としている。三金会のメンバーは業種が多岐にわたっているので、できるだけユニークなものをということで、八〇年代は物ではなくて心、人の温かいふれあいを育てるようなスペースを考えたい。未来の海上都市ということで水によるふれあいの場として考えています。博覧会はおまつりではあるけれど、何か訴えるものといふか、提案が必要じやないか、それから神戸という地方博ではあるが、コミュニケーションにおける人間の温かいふれあいを育てる、そのための提案を具体的に検討中です。これはこうだという考え方を提案するのじゃなく、さりげない広場とか遊具を通してやりたい。イメージとしては、未来の海上都市の広場の一つとして、水がつくり出す快適な環境と、そこに生まれる人ととのふれあい、健康的で開放的なイメージを出したい。四十五社各社が最新の技術を盛り込んで、水に関する展示も考えています。具体的には、憩いの場所として開放的な空間を提供する。それから、水の楽しい演出、たとえば、滝とか噴水とか夜は音楽と光で演出をして楽しいものにした。三番目には、歩きながら、あるいは、参加しながら楽しむそういうルートというか動線を考えます。単なる広場ではなくて、たとえば水のアスレチック、水の塔、池の中の島など遊びが育てる友情の場所、一緒に遊んで友だちになろう、ということを考えています。水を通した人ととのつながりの輪を考えています。

日比野 芙蓉グループは、万博・沖縄博にも出展し、今度が三度目ですが、参加企業は三十六社、四十二社、五

十三社と毎回毎に参加企業の輪が広がっています。博覧会ですから、楽しく、誰にでも分りやすいということが基本ですが、それともう一つは、万博が人間の叡知や技術の発展のきっかけになつたという歴史がありますから、博覧会の場で、人間の未来に対する何か提言をしていくあるいは警鐘を打ち鳴らしていく、ということが必要じゃないか、単なるおまつり騒ぎには終わらせたくないと考えています。テーマを何にするかという議論の出発点で、神戸市がここ十年以上前から進めていた新しい国士の創成は日本の都市の中でも珍しい、長期的構想で進めて来た壮大な事業だと思う。その一環として、ポートアーランドという人間の暮らしの機能をすべて備えた新しい文化都市は非常に意義が深い。すべての機能を備えた人工の都市ができるだとうことは、あくまでも自然の本来の姿が残って、しかも、そこに人が住んでいるという自然と人間が調和できるような新しい国士が創設された、人間の知恵による新たな自然の創造というところをすべきじゃないか。それでは我々のパビリオンで、それを具現化する表現ができないかということで、自然の循環を尊重するというか、もう一度考え直すことが必要じゃないか。さらに、人類が直面している難問題、特に日本ではエネルギー問題、環境破壊問題などを解決していく一つの方向づけとして太陽を軸とした自然の力をもつと見直して活用していかないといけない。そういうことで「自然のめぐみ、ひとの知恵」ということをテーマにした展示はできないかということで話が進んでいた。そこで、植物が今まで果たしてきた役割、植物と人間との過去の関わり合い、これから先の植物と人間との共存、こういったことを展示の中で具現化したい。建物は、過去二回と同様、空気膜構造の大家、村田豊さんに頼んでいます。空気膜構造は、素材が安く、空気を入れれば建物がふくらむというだけではなく、自然と調和させることの意味合いが非常に強い建物です。大きなドームの中に四つ小さなドームをつくり、そのうち一つを事

務室、三つを展示に使う。建物の中に植物を繁茂させ、植物の実物展示ということでやつていただきたい。展示の概要は、入口の外に花の塔をつくる。一つ目の展示室は「あすの花園—みのりのくにへようこそ」、水耕法、礫耕法で花と実をならせる。二番目は、植物エネルギーを未来の技術として使う実験の「植物のひみつ」、三つ目ではアニメーション映画をやります。有史以来の植物と動物、人類との関わりの説明です。

渡部 私どもとしましては、楽しく、夢のあるもの、そして、それをご覧いただいたことによつて、見てよかつた、来てよかつたという感想をもつて帰つて欲しいといふ気持ちが大変強い。博覧会のメインテーマが「新しい『海の文化都市』の創造」ということですが、私どもは「文明への情熱・日本文化の交流と形成」ということをテーマにしています。これをテーマにしたのは、今からものを考えてみたい、何か勉強をしてみたいというときのきっかけにでもできたらということ、もう一つは、大変な古代史ブームの一環、今、日本では国際的な交流の場としての大きな変化が生まれて来ている。それをして去にたどると、遣隨使、遣唐使の時代になる。そういうことで、遣唐使がもたらした日本文化へのインパクト、それによって今日にまでつながっている社会、芸術、風俗、習慣、法律、政治、あらゆるものルーツになるものが多いためです。ところが、遣唐使の乗った船はどんな船なのだろう、ということが、これまでの文献ではまったく不明なんですね。乗った人数、航路というあたりまでしか分かっていない。どれだけの大きさで、どういう格好で、どういう構造で、どういう道具を使つてつくったかはまつたくの謎です。それを学際的なアプローチによつて何とかつくれないかということです。展示の中心は遣唐使船ですね。約二十尺の長さで、幅は八尺前後帆の高さは十六尺前後で、歴史的考証に基づいて、可能な限り精密に当時の遣唐使船を実物大に復元する。展示会場は一番小さなものになると思いますが、真ん中に遣

唐使船を置き、その周りに海のシルクロードという位置づけで奈良—長安—ローマの大バノラマなどで遣唐使の意義、国際性、今日性を理解していただき。また、コンピューターの端末機によって、特に漢字を中心とした検索もやってみたいですね。

●他都市との連携で博覧会をより有意義なものにしたい——私どもも博覧会に大いに期待をかけていいのですね。ボートピア'81に対するご意見をお願いします。

渡部 一番強く感じることは、地方の博覧会から脱して段々と規模が大きくなつたんですが、まだまだ、関東や中部圏では話題の一つにものぼっていないことです。まだ一年あるわけですが、全国的な規模の博覧会に盛りあげていくにはどうしたらいいか、相当大きなテーマになると思う。在京五社の立場からうと、これが特に大きな問題ですね。いかに盛りあげていくか、ですね。

日比野 一年前から切符を売るという話ですが、来年の世界の情勢や景気とかを考えると、そう楽観できる状態でもないかも分からぬですね。

鈴木 会場が神戸ですから、東京から一家三、四人で行くとすると、新幹線の往復の料金だけでも大変な金額になる。それだけかかるとも、行ってみようという気持ちを起こさせるピールアールが欲しいですね。

水上 万博にてもワット盛りあがつたのは三ヶ月前からですが、八〇年代の幕開けの大きなイベントですからせひ成功してもらいたいので、我々も何とか役に立ちたいと、そばかり考えてますが、ちょっと心配ですね。

池田 我々の社内でも殆んど知らないというのが事実ですね。まあ、我々としては全力を尽くさないといけないということでやつていいわけですが、たとえば、会場への“足”的問題なんかネックになりそうですが、博覧会の対応の仕方には、我々から見て今ひとつテンポが合わないな、と感じることがありますね。

渡部 東京から見て今度の博覧会は何が魅力でしょう。水上 昔は海を征服するとか、自然を征服するとか、い

ついたのが、最近は共存共栄、海を利用しようということになつたが、その点ではポートアイランドはバイオニアですね。そういう点じゃないかな。

渡部 万博のときは、一度、新幹線に乗つてみよう、といふことがあつたけれど、何か、そういう「目玉」が一つかれてくるといい。確かに人工島を見せるということもそうですが、アピールする何かが欲しい。

池田 そういう意味じや、仮りにこれが神戸でなくて、大阪や京都でやつても、アピールするものがない。関西復権が叫ばれながら、日本中を引きつける何かがない。

渡部 京都なり奈良なりとパッケージして、神戸と結びつけることが大切ですね。ポートピア'81にだけ行って帰つて来るというのは、ちょっと、もつたいないですね。水上 それと今の状況では宿泊は神戸では限界があるので大部分は大阪だと思う。そうすると博覧会だけ見て大阪へ帰るということになる。それじゃ、もつたない。ルートづくりをされないと、バスでワーッと来られて、また、バスでワーッと帰られると、神戸全体としてはマイナスですね。元町を歩いてもらいたい、六甲山へも登つてもらいたいという感じがあると思うのですが。

渡部 宿泊施設が足らないのは基本的な問題ですね。国民宿舎というかテント村のようなものがあつてもいい。池田 六甲山にある会社の寮をうまく利用させてもらうとか、考えられると思いますが。宿舎のことを本当に真剣に考へるなら、うちの池田会長がやつてある見本市船を利用するとか、あれには宿泊施設がありますからね、そういうことが今ならできると思ひますよ。協会から要望があれば、もちろん、ご協力はいたします。

日比野 万博のときは時勢が違つてゐる。単なるおまづり騒ぎで人がワーッと集まるという時代ではないですね。それと、もう一つ、博覧会のあとはどうなるのだという問題がある。博覧会が終わつたあとも大丈夫だとう構想を示してあげないと、たとえは業者が入るにして半年だけ元をとろうとするのは難しく、ピー・アー

ルのためにという協会の言い分だけではなかなか踏み切れない。地元に馴染んだお店が参画しないと、当然地元の関心も盛りあがらないことになると思ひますね。

池田 関西は日本の文化のふる里ですね。そこに現代科学の粹をこらし、テクノロジーを使って素晴らしい博覧会をやる。それがうまく調和して、みんなが、なるほど心のふる里、日本のふる里は関西だという感じがもてるばいないのであって、関西ということで人を引きつけるような企画が、ある程度必要なんぢやないでしょうか。

渡部 たとえば、奈良などと提携をして、東京から来られたらこういうプランがありますよ、ということを提供する。これは重要なと思いますよ。有馬温泉とか、城崎温泉とか、姫路城とかと結んだコースをつくる。

鈴木 ポートアイランドだけじゃなく、オール関西ということで、協会や神戸市が積極的に、こういうものもありますが、主体は博覧会ですというもつて行き方をしないといけない。神戸の人なら日帰りで行けますが、東京から行くとなると、費用もかかるので、多面的に活用できるようなことをやつていただきたいですね。

池田 もつと大きな目で見てやつていただきたい。最終的には神戸のプラスになると思う。視野が狭いとまずい。渡部 それと、博覧会の期間、京阪神が別の催しをもつてもいい。美術展とか、コンサートとか、サブイベントとしてつくるべきだと思う。そっちへ観客が流れるだろうという小さな考えを起さないことが大切ですね。丁度、期間中、高校野球がありますが、それとどう関連させるかを考えないといけない。出場や応援で全国から何千人も来るのだから、それを博覧会へ誘致する。どうシステム化するか、です。こういふ配慮を怠ぐ必要がある。

日比野 来年の修学旅行にどう働きかけるかということもありますね。

田崎真珠株

取締役社長 田崎俊作
神戸市葺合区旗塚通6—3—10
TEL (078) 231—3321

オールスタイル株

取締役社長 川上勉
神戸市生田区伊藤町121
TEL (078) 321—2111

カネボウベルエイシー株

取締役社長 稲岡必三
神戸市生田区三宮町1丁目17—4
センター・プラザ東館8F
TEL (078) 392—2101

株ベニヤ

取締役社長 松谷富士男
神戸市生田区三宮町1丁目54
TEL (078) 332—3155

モロゾフ株

取締役社長 葛野友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851—1594



キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の企画は以上5社の提供によるものです。